

別記様式

## 議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会
開催日時	平成 29 年 12 月 19 日（水）午後 3 時から午後 4 時 45 分まで
開催場所	市役所 7 階 第 1 委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、山田委員、馬路委員、浅田委員、小笠原委員、関戸八郎委員、山口委員、尾関委員 欠席委員：河村副委員長、関戸誠委員 説明者：健康福祉部長、福祉課長、福祉課統括主査、主任 岩倉市社会福祉協議会事務局長、主幹、主任、主事補
会議の議題	第 2 期岩倉市地域福祉計画の策定について ・住民活動計画について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	・(資料 1) 第 2 回議事録 ・(資料 2) 地域課題一覧表（全市） ・(資料 3) 住民活動計画（素案） ・(資料 4) 第 3 回いわくら福祉市民会議について ・(資料 5) 顔の見える連携交流会について ・(参考資料)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

野口委員長よりあいさつがされた。

2 議事

議題（1）

第2回推進委員会の議事録が了承された。

議題（2）

住民活動計画について、資料2と3により事務局により説明がされた。

委員長：昨年度実施したアンケート等の結果、小学校区ごとに若干特徴があることが分かった。岩倉市には福祉に関わるボランティアやNPOなど多様な住民の活動があり、使える社会資源を持っている。住民活動のきっかけになるので計画に位置付けていかないといけない。昨年度実施した小学校区ごとの地区懇談会では、どんなことが困っているか、何を解決したら住みよくなるかワークショップにより議論した。その結果が5つの大項目に結び付いている。今年度もワークショップを進めた。小学校区を意識してかつ自分たちができる活動について検討し、中項目の地域課題にまとめた。小学校区に絞り込んだいきさつは、顔が見え、お互いに支えあい、地域をよりよくできないか。そのためには地域へのアイデンティティや愛着を作り、住んでいて良かったという感情を作り出すには顔の見える距離感が大切であるということが第1期の反省を含めて出てきてこの小学校区になった。そうすると全体計画があり、なおかつ小学校区ごとの計画があるという二重構造になる。全体の地域課題というのは、小学校区ごとの地域課題を足しあげていったもの。できればこの小学校区ごとの活動の足し上げで全市がよくなればよい。書かれてあるのは当たり前のことかもしれないが、当たり前のことをみんなで少しずつ協力していくことこそ地域がよくなる方向だと思う。

これまで一年半の月日がかかっている。ただ、まだ足りないのは第1期の達成度・達成感をどう載せるのか検討されていない。第1期計画から見えてきた現状の不足分や評価が付加されていないので、書き込んでほしい。

住民活動計画は、このような作りでよいか。ここは第1期計画の第1章に当たる。前は26項目あったため、今回と重複した点もあれば新規事項もある。少しコンパクトになったが、ほぼ第1期と同様の手順は踏んできている。ただ、途中から検討範囲を小学校区に落とし込んだところは異なっている。

馬路：第1期計画よりトーンが変わった印象だ。第1期計画は全体的にとらえた課題が多く食い切れなかった。今回は今ある課題が設定されていて地域で取り組みやすい印象だ。第1期計画の延長かどうかはさておいて、地区の課題をやるのは自然の流れかと思う。

委員長：序章にもあるように、ここ5年で、地域に対する期待がより濃くなっている。地域

福祉計画における住民の出番が多くなっている。災害、防犯、子育て、引きこもりなど、地域でできる部分はやっていかねばと言われているし、住民も少しは感じているのではないか。

山田：第1期計画も参加していたが、範囲があまりにも広く、地区などのターゲットを小さくできなかった。先日学芸会に出かけたが、同じ小学校区であれば、区長や民生委員等と親しみをもっていろんな話もできる。そういう自分の住む地域で考えることで力も入るのではと思う。

尾関：やはり第1期計画の5年間の評価があつて次に進むものと思うので、それなしではどうかと思う。ただ、具体的な活動になれば、小学校区になっていくとは思ふが。

委員長：方法論としては第1期計画を継承している。ただ、第1期計画には数値目標はないので成果を表すのは難しい。年度ごとに会議に参加した人が第1期計画に対してどういふ意見を持っているかという集約はできている。ただ果たして、できたできないだけで評価になるのか。評価方法は確立されていないままきってしまった。1月21日にリーダーに集まってもらい参考に話を聞きたい。推進委員会で第1期を評価するのも難しい。かつてレポートを提出してもらったりもしたが、いいアイデアがあればと思う。

馬路：第1期計画は、たくさんの課題が残されている。本当は受け継いでほしいので、第2期計画の会議に加わった人にはそれなりに意見を伝えた。第1期計画に関わって一番感じているのは、実行するには地域に根ざして底辺を広げて、自治組織や活動団体に呼びかけてやった方がいいというのが結果だった。くしくも今回小学校区で会議を起こし、課題整理や現状認識をしたというのは、ある意味、第1期計画の現状がクローズアップされた形だ。これをそれぞれの小学校区で実行するという形態に持ち込んだことで、ステップアップがあるのではと感じている。実施部隊が地域に広がり、進歩したと期待している。第2期計画はある程度集約されたが防災や地域コミュニケーションなど第1期計画のテーマも含まれているので、引き継がれたのではと感じている。

委員長：序章には第1期計画の経緯も書き込むようにする。第1期計画はあれもこれも拾わざるを得ず、シャッフルする勇氣はなかった。やる方は苦しかったと反省している。何を選び出し、自分たちでできることは何かを考えながら実施してきたと思う。全部やりきるという話ではなかった。できなかったことにとらわれず、できたことを次のステップの成果にするというのが地域福祉計画の特徴である。方向としては地域をよくするため岩倉市に住み続けたいという気持ちを作っていく目標があり、そこに辿り着くための計画であり、一つ一つの事業を全部やることを背負い込むことはないと言いつつ続けてきた。

山口：地域福祉計画は岩倉市の計画であり、その中に住民活動計画が位置付けられているが、誰がいつ、この計画を実施するのかがよく分からない。

委員長：第1期は、いわくら福祉市民会議という母体を作り、4つの作業部会を置いた。全市が範囲なのでそうした。第2期は、小学校区ごとに北小部会みたいなものになっていく。組織図は作らないといけない。市民会議の第2期版を作る。それを社協と行政

の支援計画がバックアップすることになる。社協の計画はどうなっているか。

若杉：社協としては、そもそも地域福祉の推進をしていて、支会活動という組織を持っている。各行政区に会費をいただいて運営しているので、小学校区に対する支援がどこまでできるか難しい。今のところ支援計画は総論にならざるを得ない。

委員長：社協として資料2をバックアップするための総論を考えているということでしょうか。

若杉：はい。

委員長：支会と小学校区とをどうしていくかについては散々議論があったが、今のところ小学校区でやろうと決断したので、その調整を具体的にしていかなければならない。

山口：小学校区のどんな組織か。集まってもらった人たちか。

委員長：今のところ、市民会議の参加者、その中には民生委員や区長も含まれる。

馬路：委員も一度出てきてはどうか。どう組織化していくか詰めの段階だ。

委員長：今回の市民会議の印象は若い方が出席していることがある。

山田：保健推進員や子ども会役員などが出てきている。

委員長：第1期計画の時は高齢者中心だった。今回は、女性や若者も参加しているが、組織論は詰める部分は残っている。

山口：地域課題の設定はよいが、どうやっていくかのイメージはできなかった。

委員長：推進計画は第4章になる。そこは詰めていかないといけない。

関戸八：実際にこの地域福祉計画は市民には分かりづらく知られていない。第1期は大まかにやった。今回小学校区の声を反映させるわけだが、第1期の検証もせず進めてよいか。

委員長：検証が全くされなかったわけではない。毎年報告しながら積み上げてはきた。

関戸八：やるとしたら資料2のとおり、時間がないため進めていくしかない。

委員長：第1期計画においても、計画が市全体に普及しないという意見をいただき、広報部会を立ち上げた。その結果広報の仕方について検討した。この広報のやり方というのは第1期計画の反省として入れ込んでいかないといけない。ボリュームがありすぎた反省は生かしている。

関戸：こういうことより、障害福祉計画の規定を条例化するなどして市民に周知しては。

委員長：それぞれの分野計画があるが、地域福祉計画が全部を飲み込むわけにもいけないので、それぞれ計画を立てる必要がある。それを踏まえて、地域福祉計画をどうするか議論してきた。

関戸八：それであれば資料2に基づいて進めていくほかない。

委員長：観念的に作ったものではなく、皆さんの意見を集約してきたつもりである。そうすると出てきた案には当たり前のことも含まれてくる。ただ、こういうことを一つずつ積み上げることが地域がよくなることにつながっていく事実だ。ただ、当たり前のことであっても実際に実行していくのは案外難しいかもしれない。

浅田：第1期計画の範囲は広い。第2期計画はボトムアップして具体的な計画ができています。

実際の運用については、小学校区ごとにやるなら、支会をうまく利用しながら若い人に参加いただき、核となる組織で引っ張っていかないと、あっという間に5年たってしまう。支会の中に入れてやっていけば、具体的な計画を実現できる可能性もある。困っていることを解決できれば市民もよくなったと感じだろうし、自ら参加したら達成感もあるだろう。

委員長：資料2の地域課題一覧表を見ると、どこの小学校区も具体的内容には参加できる場所の設置など共通している。支会と小学校区というところが課題だと伺ってはいるが、両方の組織をうまく融合させながら、場所を設定しながら、そこで何かをやりながら、そこに解決しなければならぬ課題が新たに出てくることもある。ただ、場や機会を作ろうというのが共通項であるので、まずそれを作っていこうということはそれぞれの小学校区でできることではないか。

文言の言い換えが必要な箇所はまだあるが、ここまで住民活動計画の方針としてはこれでよいか。「住民」と「市民」との言葉の使い分けは検討する。また、序章については第1期計画の経過等に触れながら、第2期計画の構想について書くこととする。

小笠原：資料2の地域課題一覧表（全市）の地域課題が分かりやすい。仕事をしている介護の分野も分かりやすい。ただ、高齢者の独り暮らしの場合、病気やけがをすると子どもさんなどはすぐに施設に入れることを考えてしまい、空き家が増える要因になる。そのような課題も今後出てくるだろう。また、閉じこもりがちな高齢者の外出に対して、自宅開放や公会堂でのサロン活動などは地元でも活発にやられているが、行政や社協はどのように関わってくれるのか非常に興味を持っている。また、認知症の人が安心して外出するとしているが、とても難しいことだと感じている。また、介護が必要になった時の相談場所も周知できるような方法ができてくるといい。また、小学校区より身近な地域（行政区）があるがどう取り組んでいくのか。

馬路：来年4月から動き始めるので、それまでが組織作りだ。

委員長：相談体制については、序章で地域包括ケアシステムとの関係のところでも頭出しをしていくことにしている。委員の皆さんの心配事が、どういう実施部隊を立ち上げるのか、そのバックアップを社協と行政がどうやるのかということであるのが分かった。その当たりの支援計画をどのように書き込んでいくのかは次回に示す。

山口：資料2で、広報を通じて外国人に呼びかけるとあるがどういうことか。

事務局：東小学校区の課題から引用している部分であり、実際の行動計画は部会として稼働しだしてから検討するものであり、イベント等の機会に対して呼びかけることになるが、市の広報紙への掲載だけでなく、コミュニティ内での回覧板などの連絡手段など幅広い意味での広報を指している。

山口：外国籍の人に呼びかけるだけでなく、こちらから歩み寄る姿勢が必要ではないか。

委員長：委員の趣旨は理解できる。項目としては、様々な文化的背景を持つ住民同士の交流とあるので、言い回しは検討していく。

### 3 その他

第3回いわくら福祉市民会議、顔の見える連携交流会及び地域福祉推進フォーラムの開催について事務局より報告がされた。

山口：顔の見える連携交流会について、いわくらあんしんねっとの体系図には、ボランティア団体が掲載されているが、交流会概要には参加者にボランティア団体が無い。

事務局：今回の趣旨は、他職種間の職務を理解し連携につなげることなので、特に専門知識の有する方に声をかけている。

山口：市民活動支援センターやボランティア連絡協議会には声がかかってもよいのではないかな。

委員長：48ページのネットワーク図があるが、事務局が案内しているのは、専門職ネットワークへの呼びかけであり、現状ではせいぜいこの範囲だろうということだが、委員は地域福祉協力者ネットワークにつなげていかないといけないという問題提起をしている。今すぐできるとは言えないが、第2期計画の宿題である。岩倉市にはいろんな方々がいろんな活動をしていて、その資源を使わない手はない。そこをもう少しきちんと利用していこうという仕組みではあったが、実現してこなかった。上の2つのネットワークをつなげるということができていないという宿題である。できれば問題提起されているので、声かけできるところは声かけしてつなげるきっかけとしてはどうか。

事務局：委員の趣旨は了承したので、参加してもらうことに異存はない。

委員長：他に無ければ、会議を終了する。

事務局：次回は平成30年1月23日午前10時に開催予定。